

認定書

国住指第 1681 号
令和元年 10 月 11 日

株式会社古河テクノマテリアル
代表取締役社長 鈴木 比呂輝 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060FL-1076
2. 認定をした構造方法等の名称
ケーブル・電線管／熱膨張性シート・セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

ケーブル・電線管／熱膨張性シート・セメントモルタル充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表 1 に示す。

表 1 仕様の寸法等

項 目		仕 様
開口部	形状	円形(φ 160 mm以下)
	面積	0.02011m ² 以下
占積率 (開口面積対するケーブル・電線管の断面積の 総合計の割合)		14.1%以下
貫通する床の構造等		ALCパネル 厚さ100mm以上 又は 鉄筋コンクリート造 厚さ 75mm 以上

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表 2 に、ケーブル・電線管の仕様を表 3 に示す。

表 2 主構成材料の仕様

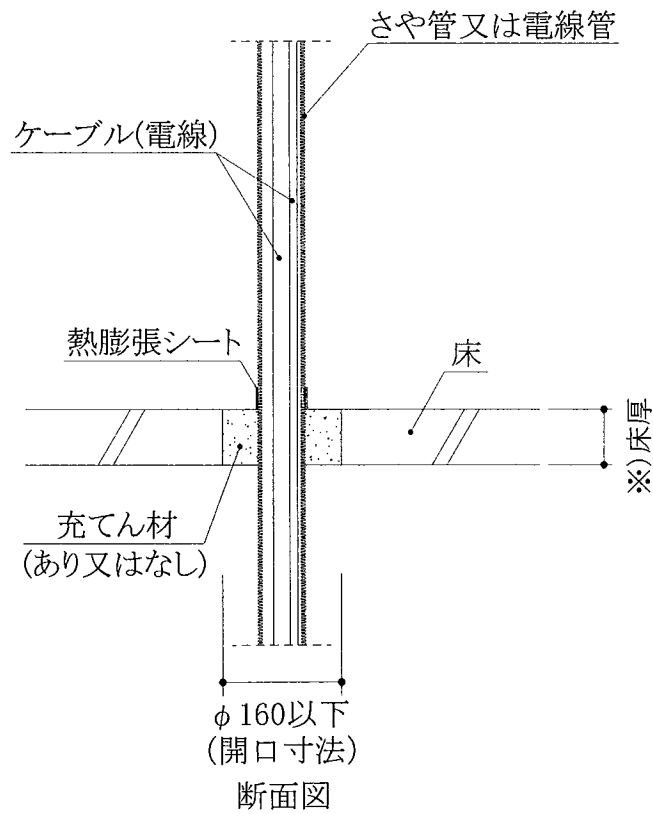
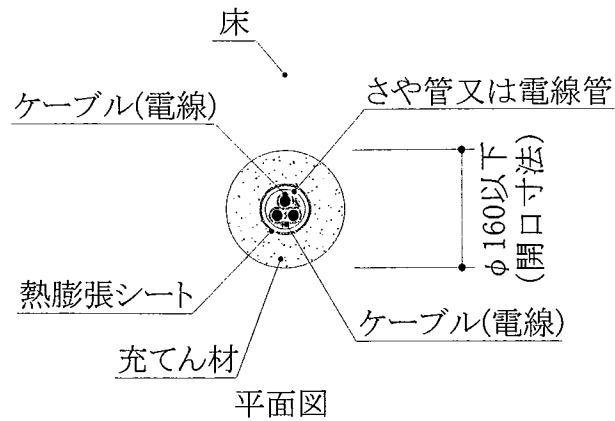
項 目		仕 様	
熱膨張性 シート	材料	表面材付グラファイト系熱膨張性シート	
	寸法	総厚さ：2.25mm以上 幅：30mm以上	
	使用箇所	樹脂製電線管の周りに巻き付け(床上)	
	表面材	材料	①又は② ①ガラスクロス(化粧：あり又はなし) 化粧の材質：1)～4)の一 1)ポリエチレン系樹脂 2)塩化ビニル系樹脂 3)シリコン系樹脂 4)オレフィン系樹脂 塗布量：850g/m ² 以下 ②アルミニウム箔貼付ガラスクロス
		厚さ	0.25mm以上
	基材	材料	グラファイト系熱膨張性シート
		厚さ	2.0mm以上
		密度	1.25(±0.20)g/cm ³ 以上
		組成 (質量%)	材料組成は社外秘とさせていただきます
	充てん材 (あり又はなし)	材料	セメントモルタル
組成 (質量%)		普通ポルトランドセメント 25.0 砂 75.0	
使用箇所 (使用量)		ALCパネルの場合：あり 鉄筋コンクリート造の場合：あり又はなし 床と電線管との隙間に密に充てん(床厚方向に75mm以上)	

表3 ケーブル・電線管の仕様

項目	仕様			
ケーブル	導体(又は芯線)の断面積	1本あたり	150mm ² 以下	
		総合計	462mm ² 以下	
	総有機量	1.2822kg/m以下		
	導体(又は芯線)の種類	銅、ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質		
	絶縁体	ポリエチレン系	厚さ	2.0mm 以下
		塩化ビニル系		
		EPR(エチレンプロピレン)系		
		ポリオレフィン系		
介在(円形に調整する充てん材)	紙、ジュート、ポリオレフィン又はなし			
シース	ポリエチレン系	厚さ	1.5mm 以下	
	塩化ビニル系			
	ポリオレフィン系			
	合成ゴム系			
電線管	材料	①又は② ①さや管(合成樹脂製可とう管) (JIS C 8411 CD管に規定された要求性能を満足するもの) 材質: ポリエチレン樹脂 ②合成樹脂製可とう電線管 (JIS C 8411、CD管又はPF管)		
	外径	さや管: 60.0mm以下 CD管: 48.0mm以下 PF管: 52.0mm以下		

4. 構造説明図：
 構造説明図は図1に示す。

単位 mm



※) 床厚はALCパネル100以上、鉄筋コンクリート造75以上
 ケーブルの配置は一例を示す

図1 構造説明図

5. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

(1) 開口部の確認

床の開口部が適用範囲内(円形状： $\phi 160$ mm以下)であることを確認し、貫通する配管・ケーブルの占積率が開口面積に対して 14.1%以下であることを確認してから、開口部と配管・ケーブルの隙間に 75mm 以上充てん材で埋め戻す。

※配管・ケーブルにコンクリートを直接埋め戻しする場合、占積率は考慮しない。

(2) 熱膨張性シートの巻き付け

配管・ケーブル貫通部の床上面に熱膨張性シートを1周以上巻きつける。尚、熱膨張性シートは必要に応じて分割して使用することができる。